全私保連 保育運動
新しい時代は子どもから

いつもの保育の実践と写真で伝える私たちが伝えたい7つのメッセージ

私たちが伝えたい7つのメッセージ

1 子どもの思いを受け止めましょう
2 子どもの「遊び」を守りましょう
3 子ども自身に乗り越える力を育てましょう
★4 子どもの「自分でやりたい」を大切にしましょう
5 子ども同士の関わりが大切です
6 みんなで食べると美味しいんです
7 子どもは自然が大好きです

4 子どもの「自分でやりたい」を大切にしましょう
……一緒に考え、子どもの意欲を認めること

「何でも自分でやろうとする意欲のある子に育っていってほしい」

そんな思いをもって子どもたちと関わる中で、目の前にいるその子がしようとすることを、じっくりと見守り続けることは難しいことだと思います。しかしながら、その中で私たちが大切にすることは、その子がしたいこと、関心を向けていることは何なのかを見ようとし、理解しようとする心であると感じています。

ずりばいやハイハイをし始めた乳児期の子どもには、しっかりと自分の意思があり、「あの玩具を手にしたい」「知らない世界を知りたい」という

思いを感じ取ることができます。興味のある方向へ自ら進もうとしているという眼差しを向けることで、「何もできない赤ちゃん」ではなく、「意思をもった一人の人」としての関わりに変わってくると思います。

傍で見守りながらも、敢えて手を貸さずに見守ることは、意外と難しいことですが、自分で進むことでほしいものを手にすることができたという経験ができるように「程よい距離」で温かく見守ることが、子ども自身の「やりたい」という意欲につながっていくと考えています。

1歳児期を迎えると、自分の場所や自分のものがわかるようになり、毎日繰り返している生活の流れや物事の手順についてある程度予想もできるようになるため、何でも試して繰り返す中で物事に手応えを感じられるようになります。そのため、子ども自身が自ら、出し入れしたり、取り出したりしやすい環境をつくることで、「これで遊びたいな」と感じた時に、自分の意思で遊び込み、試行錯誤していく一歩を踏み出していきます。

どこまでできるのか、何に困りを感じているのかを理解することで、身の回りのことへの意欲も増していきます。例えば、自分で服に袖を通すことができるようになった時期は、袖を通し終えるまで傍で見守り、まだできないボタンかけをさりげなくかけてあげながら「自分でできた」ということを大いに認めることで、自分でできたという手応えを喜ぶようになり、さらなる「自分でやりたい」という気持ちを育んでいます。

子ども自身が自ら選択し「自分でやりたい」と取り組むことで、物事に見通しをもったり、責任をもったりできるようになっていくため、上手くいかない時は、一緒に考える、やろうとする意欲を認めることを繰り返す中で、さらなる課題への意欲が増していくのだと感じています。「やりたい」という自分の意欲が満たされる経験で「周りへの興味」へもつながっていくため、私たちは、自ら物事をしようとする子どもの心の動きやその過程をしっかりと見て、「頑張ってるね！」「自分でやれたね！」といった言葉で「ちゃんと見ているよ」と伝えることを大切にし、子どもの「やりたい」という気持ちを育んでいきたいと思います。